第113回
品質管理シンポジウム

QCS Quality Control Symposium

顧客価値創造と価値獲得に貢献できる現場力の育成と強化

―コト価値の発生が求める現場力―



【主担当組織委員・基調講演】
大阪電気通信大学　名誉教授
猪原 正守 氏

【特別講演】
トヨタ自動車㈱
トヨタZEVファクトリー
FC事業領域　統括部長
濱村 芳彦 氏

【講演1】
富士フイルムビジネスイノベーション㈱
代表取締役社長　CEO
真茅 久則 氏

【講演2】
㈱キャタラー　代表取締役社長
砂川 博明 氏

【講演3】
花王㈱　代表取締役　社長執行役員
長谷部 佳宏 氏

【講演4】
ダイヤモンドエレクトリックホールディングス㈱
代表取締役社長CEO　兼グループCEO
小野 有理 氏

開催期日：2022年6月2日（木）～6月4日（土）　　会場：大磯プリンスホテル

主 催：一般財団法人 日本科学技術連盟　　後 援：一般社団法人 日本品質管理学会

メインテーマ　顧客価値創造と価値獲得に貢献できる現場力の育成

趣旨



猪原 正守 氏
大阪電気通信大学
名誉教授
第 113 回
品質管理シンポジウム
主担当組織委員

コマツ・坂根正弘顧問が「ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負をかければ世界競争に勝てる」ということをご提言され、第 104 回品質管理シンポジウム（QCS）から第 112 回 QCS にわたって顧客価値創造と価値獲得にかかわる組織能力のあり方について、様々な視点から議論して参りました。

ここでは、組織能力とは、「組織が、その目的を達成するため、顧客指向の目的・目標・方策を策定する戦略能力と、経営資源を適切に調整・組合せ・一体化し、協働させるプロセスを通じて醸成されるマーケティング、設計技術、生産／製造技術および技能・知識・ノウハウなどの機能別能力、そして仕事の仕方を改善・革新することによって、制約条件の下で目標を必達するプロジェクト能力から構成されるものである」と考えたいと思います。

そして、第 110 回 QCS におけるトヨタ自動車九州株式会社・永田理社長の講演において提言されたように、「組織能力の育成・強化には現場力の育成・強化こそが原点である」との理解から、顧客価値創造と価値獲得に貢献する現場力の育成と強化について議論したいと考えます。

その上で、「現場力とは、顧客第一の理念の下、全員参加で継続的改善を行うことのできる組織体質を前提として、コト価値の創造と価値獲得に対して効果的かつ効率的に対応する能力」と考えたいと思います。また、「現場力」を職場第一線の職場力と狭義に理解するのではなく、「それぞれの現場における一人ひとりが持つ暗黙知を組織知として体系化する経営トップの粘り強いリーダーシップとミドルのマネジメント力など、コト価値の発生が求める品質保証への対応力」であると考えたいと思います。

そして、デジタルトランスフォーメーション（DX）化が進展する中で、企業の持続的成長にとって重要な（故）高橋朗氏の言われた「質創造」（魅力的品質の開発と創造的品質保証）、生産性の向上、コスト低減、納期の短縮、安心・安全の確保など、コト価値創造と価値獲得が求める現場力とは何か、その現場力を育成・強化のためには、だれが、何を、どのようにしなければならないのか、さらに、そうした現場力を組織能力として昇華あるいは体系化するための課題は何か、などについて、特別講演・基調講演・事例講演とご参加いただけるみなさまとの GD および総合討論を通じて、議論して参りたいと思います。

プログラム

開催期日：2022年6月2日（木）～6月4日（土）
会　　場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2022年3月現在の表記になっております。

月日	時　間	科　目	講演者
6/2（木）	19:00～20:10	**〈特別講演〉トヨタが取組む 水素・燃料電池技術によるカーボンニュートラル社会への貢献**	**濱村 芳彦 氏** トヨタ自動車㈱　トヨタZEVファクトリー FC事業領域　統括部長
	20:10～20:30	質疑・応答	
	20:30～22:00	GD（1）、談話室	
6/3（金）	8:30～ 8:50	主催者挨拶、趣旨・ねらいの説明	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟　理事長
	8:50～ 9:40	**〈基調講演〉顧客価値創造に貢献できる現場力の育成と強化 ～コト価値の発生が求める現場力～**	**猪原 正守 氏** 大阪電気通信大学　名誉教授
	9:40～ 9:50	質疑・応答	
	9:50～10:00	休憩	
	10:00～10:50	**〈講演1〉富士フイルムビジネスイノベーションの事業転換に向けた DXの取組み**	**真茅 久則 氏** 富士フイルムビジネスイノベーション㈱ 代表取締役社長　CEO
	10:50～11:00	質疑・応答	
	11:00～11:10	休憩	
	11:10～12:00	**〈講演2〉持続的成功を目指すキャタラー流品質経営 ～顧客価値を創造・獲得できる組織能力の育成～**	**砂川 博明 氏** ㈱キャタラー　代表取締役社長
	12:00～12:10	質疑・応答	
	12:10～13:10	昼食休憩	
	13:10～14:00	**〈講演3〉ESG視点でのよきモノづくり　～現場起点の顧客価値創造～**	**長谷部 佳宏 氏** 花王㈱　代表取締役　社長執行役員
	14:00～14:10	質疑・応答	
	14:10～14:20	休憩	
	14:20～15:10	**〈講演4〉お客様要求品質第一に徹する耀き疾走する仲間達との再生物語**	**小野 有理 氏** ダイヤモンドエレクトリックホールディングス㈱ 代表取締役社長CEO　兼グループCEO
	15:10～15:20	質疑・応答	
	15:20～15:30	GD趣旨説明	猪原 正守 氏
	15:30～15:50	休憩・移動	
	15:50～18:00	GD（2）	
	18:00～19:00	夕食	
	19:00～20:15	GD（3）	
	20:30～22:00	談話室　（自由参加）	
6/4（土）	8:30～10:00	GD報告（10分×8班、予備）	司会：猪原 正守 氏 報告：各班リーダー
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	
	11:35～11:50	第113回品質管理シンポジウム　まとめ	猪原 正守 氏
	11:50～12:00	次回（114回）品質管理シンポジウム案内	小笠原 浩 氏 ㈱安川電機　代表取締役会長兼社長 114QCS主担当組織委員
	12:00～	昼食・解散	

講演概要

6／2（木）　特別講演

トヨタが取組む
水素・燃料電池技術による
カーボンニュートラル社会への貢献

濱村 芳彦 氏　トヨタ自動車㈱　トヨタＺＥＶファクトリー
ＦＣ事業領域　統括部長

トヨタはこれまでカーボンニュートラル社会を実現するには多くの仲間と共に歩むことが不可欠でそのために『多様な選択肢』の考えのもとに技術開発を進めています。そのなかでもエネルギーの貯蔵性、可搬性に優れた水素を使った燃料電池等の技術について世界中の『現場』で取組んでいる進化の為の技術開発やニーズ・付加価値の模索に加え普及の為の仲間づくりの実情を『誰かの為にお役に立ちたい』というトヨタの想いや都度直面する課題とともにお伝えします。また少しずつですが連動しはじめた自治体主導の水素社会づくりへの貢献や日本が進める産学官連携についてもご紹介し、今後の皆様の企業経営の気づきや参考になれば幸いです。



6／3（金）　基調講演

顧客価値創造に貢献できる現場力の育成と強化
～コト価値の発生が求める現場力～

猪原 正守 氏　大阪電気通信大学
名誉教授

デジタル化・IT化の普及によって、デジタル家電を代表として急激なコモディティ化が進行し、結果として価格競争による価値獲得（利益獲得）が困難になっています。これに打ち勝つためには、コマツ・坂根正弘顧問が「ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負をかければ世界競争に勝てる」と提唱されました。これを実現するためには、「顧客価値創造＝誰も見たこのない顧客ニーズの見える化」と、「多品種変量生産体制における品質・原価・納期・時間の創造的品質保証活動の確実な実施」が求められます。

本講演では、それを実現するために「経営トップからミドルマネジメントあるいは技術者・スタッフ、さらには職場第一線のあらゆる階層における現場力を育成・強化することの重要性といくつかのアイデアを紹介したいと考えます。



6／3（金）　講演１

富士フイルムビジネスイノベーションの
事業転換に向けたDXの取組み

真茅 久則 氏　富士フイルムビジネスイノベーション㈱
代表取締役社長　CEO

2021年4月に旧富士ゼロックスから富士フイルムビジネスイノベーションに社名を変更し新たなスタートを切りました。今回は、富士フイルムの事業構造転換の歴史をふまえ、当社の変革に向けたサービス・ソリューションへの事業転換、今後のDX事業への取り組みと、新たな価値づくりについてご紹介します。また後半では、DX事業の具体的な事例として弊社の海外展開を見据えた品質管理業務をご紹介いたします。デジタル化を通じて部門を横断して自ら課題を発見し、それを自ら解決するトランスフォーメーション人材の重要性のお話しをさせて頂きます。



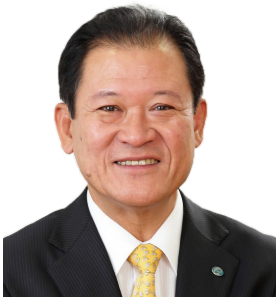
6／3（金）　講演２

持続的成功を目指すキャタラー流品質経営
～顧客価値を創造･獲得できる組織能力の育成～

砂川 博明 氏　㈱キャタラー
代表取締役社長

キャタラーは、2015年に全従業員の努力と全社を挙げたチームワークによりデミング賞を受賞することができました。また、2018年にはデミング賞時の課題や新たに掲げた目標をやりきりデミング賞大賞を受賞することができました。デミング賞大賞受賞以降も、事業環境の大きな変化を認識し、改革のスピードを緩めることなく品質経営を強化しています。

本講演では、グローバル競争の激化、電動化へのシフトなど100年に一度の大変革期と言われる時代をどのように乗り越えようとしているか、キャタラー流の顧客価値創造・組織能力の育成やデミング賞の活用について、事例を交えながらご紹介いたします。



6／3（金）　講演３

ESG視点でのよきモノづくり
～現場起点の顧客価値創造～

長谷部 佳宏 氏　花王㈱
代表取締役　社長執行役員

花王は創業から130年余り、消費者起点の“よきモノづくり”を通じて人々の一生に寄り添う商品を提供してきました。今、世界がパンデミックや社会の分断、さらに深刻化する地球環境問題などで混沌の中にあり、我々に求められる責任と役割は大きな転換期を迎えていると感じています。花王グループはさらなる進化を重ね、消費を前提としたモノづくりから資源を循環させるモノづくりへと変貌させ、循環型社会への移行をめざします。

今回の講演では「ESG視点でのよきモノづくり」についてお話し、品質向上活動を通じて顧客価値創造にどのように貢献するか、そして花王の現場力の強みに関してもご紹介させて頂きます。



6／3（金）　講演４

お客様要求品質第一に徹する耀き疾走する
仲間達との再生物語

小野 有理 氏　ダイヤモンドエレクトリックホールディングス㈱
代表取締役社長 CEO　兼グループ CEO

私達ダイヤモンドエレクトリックホールディングスは独禁法違反を端緒に消滅の危機に瀕していたダイヤモンド電機と、あと4日で民事再生を迎えたはずの田淵電機が一緒に為り、其之【奇跡のもたれあい】にて生き延び生き残った「ものづくり企業」です。

奇跡のもたれあい、とは、自動車用点火コイルを主としたダイヤモンド電機と、太陽光発電用ハイブリッド蓄電システムを主とした田淵電機の組合せが生み出した新たなビジョン【車と家をものづくりでつなぐ】のもとで、上場企業二社同時再生が果たされ、且つ上記ビジョンが具現化されつつあることを表します。

此度は、私が2016年6月に社長就任後一週間で策定した社長三大方針の一である【お客様要求品質第一に徹する】に、企業再生の困難の中、挙社一致品質保証体制にて「働く仲間達」みんなが取り組んできたものづくり、連戦猛進激動の日々を紹介させて頂きます。



113QCS グループ討論　GD テーマ、趣旨と論点

第1班　コト価値創造が求める現場力の育成・強化に対する経営トップの役割

石津 昌平（青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授）　山岸 康一郎（株式会社東海理化 執行役員 品質保証センター センター長）

趣旨

コト価値創造と価値獲得には、モノ機能の品質保証を中核とした従来のビジネスモデルのあり方に対してさらにエコシステム化などの変革が求められています。TQMの活動要素である方針管理、日常管理、機能別管理などのトップダウンマネジメントのあり方やQCサークル活動（小集団改善活動）などを通じたボトムアップマネジメントのさらなる進化が必要です。

第1班ではこうしたコト価値創造と価値獲得に応えられる「現場力」の育成と強化に対する経営トップの役割について議論します。

論点

❶ コト価値創造をしていくために、どのような現場力が新たに必要となるか?その現場力を得るための課題は何か?

❷ コト価値を創造する現場力を変革していくために、どのような価値観や仕組みが必要か?現場力の変革における課題は何か?

❸ コト価値創造と価値獲得のための現場力の育成・強化に対して経営者が果たす役割は何か?

第2班　コト価値創造が求める長期的商品開発戦略とアジャイル戦略の両立

西 敏明（岡山商科大学 経営学部 教授）　遠藤 秀信（元株式会社リコー 顧問）

趣旨

ビジネスモデルで先行するためには、世界中のだれも気づいていない顧客の潜在ニーズ（コト）を把握することが起点となります。しかし、顧客自身も気づいていないコトは時間軸で成長あるいは変化するため、シーズ技術の研究開発を魅力ある製品へと結実させる長期的視点に立った商品開発戦略と、潜在ニーズに対する仮説生成とデータに基づく仮説検証のサイクルをスピーディにまわすアジャイル戦略の両立が求められています。

第2班では、こうした視点から、長期的商品開発戦略とアジャイル戦略の両立の実現に貢献できる現場力の育成と強化について議論します。

論点

❶ 顧客の潜在ニーズを把握するために必要な活動はどのようなことが有効であるか。

❷ 長期的視点に立った商品開発戦略と、仮説検証のサイクルをスピーディにまわすアジャイル戦略を深く進めるためには、どのようにすればよいか。

❸ 潜在ニーズの把握、長期的商品開発戦略とアジャイル戦略の実現に貢献できる現場力の育成をするためには何が必要か。

第3班　顧客の期待価値を超えるコト価値づくりとフロントローディング化

長塚 豪己（中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授）　坂本 定（愛知製鋼株式会社 総合企画部 執行職）

趣旨

「モノ価値づくり戦略」を基盤とするビジネスモデルでは、「コモディティ化」が持続的成長の障壁となり、顧客の期待価値を超えるコト価値づくりが求められます。そこでは、顧客のオペレーションプロセスに対する理解に基づく自社のサービスデリバリプロセス再構築とともに、AI、IoTなどのDXの有効活用による手戻りのないコト価値づくりプロセスの構築が必要とされます。

第3班では、顧客期待価値を超えるコト価値づくりとそれを実現すべく企画・設計プロセスのフロントローディング化に貢献できるあらゆる階層の現場力の育成と強化について議論します。

論点

❶ 顧客期待価値を超えるコト価値づくりとそれを実現すべく企画・設計プロセスのフロントローディングを行うために求められる要件、活動は何か。

❷ そのために各組織に求められる能力は何か。

❸ 2を達成するために、組織の各階層・部門が行うべき育成と改善点は何か。

第4班　デジタルトランスフォーメーションによる生産性の高い現場の実現

鈴木 知道（東京理科大学 理工学部 経営工学科 教授）　馬渕 和広（株式会社アイシン グループコーポレート基盤本部 TQM・ISO推進部 部長）

趣旨

デジタルトランスフォーメーション（DX）があらゆる企業活動のあり方を変革しようとしています。ある意味では、顧客のDX化されたオペレーションプロセスに対応できる自社ビジネスプロセスのDX化が求められています。そこでは、DXを利活用することによる販売代理店とサプライヤーおよび自社のオペレーションプロセスにおけるあらゆる現場のさらなる生産性向上が期待されています。

第4班では、AIやIoTなどのICT技術を核としたDX化の推進によって生産性の高い現場を実現するための課題と解決策について議論します。

論点

❶ 生産性の高い現場とはどのような姿か?どこを目指すのか?

❷ DX化の推進によって生産性の高い現場を実現するための各社の取り組みは?

❸ DX化の推進によって生産性の高い現場を実現するための課題に対する解決策は?

第5班　あらゆるプロセスにおけるムダの排除とモノ・情報の整流化

太田 雅晴（大阪学院大学 経営学部 教授）　加藤 広樹（株式会社オティックス 経営管理本部 主査）

趣旨

DXやスマートファクトリーなど、顧客のニーズに迅速かつ柔軟に対応するICT活用を前提とした指針が活況を呈しています。その推進にはPQCDSMEに関わる「現場力」の圧倒的向上が前提です。その基本は、製造プロセスは言うに及ばずビジネスプロセス全般の3ム（ムリ、ムダ、ムラ）の排除と16個のロスの排除を自主的・計画的に行い、並行して情報の流れ（前工程）とモノの流れ（後工程）を整流化・最適化する独創的取組を創造して具現化することです。

第5班では、各社の先端事例を持ち寄り、それらの方法論と関連する課題について議論します。

論点

❶ 顧客ニーズを迅速かつ的確に見いだし、それを企画・設計・製造プロセスに結びつけるには。

❷ プロセス全般の3ム（ムダ、ムラ、ムリ）と16個のロスを迅速かつ的確に発見するのに必要となる現場力とその育成。

❸ モノの流れと情報の整流化、最適化に向けての課題とその解消の処方箋とは。

❹ 上記3論点の遂行を支援するICTシステムのあるべき姿と現状とのギャップとその解消への課題。

第6班　あらゆる価値づくりプロセスにおけるパートナーをも巻き込んだ効果的・効率的な価値創造

木内 正光（玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授）　鈴木 直人（元日野自動車株式会社 TQM推進室長／一般財団法人日本科学技術連盟 嘱託）

趣旨

コト価値づくりは、従来の新製品開発活動におけるコスト低減のあり方に変革を求めています。特に、新製品開発プロセスにおけるリバースエンジニアリングやティアダウンによるコスト設計、サプライヤーを巻き込んだVE・VA活動の推進といったReactiveな活動は、AIやIoTなどのICT技術あるいはSQC活用によるデータ解析によるProactiveなコスト低減活動への変革を求めています。

第6班では、あらゆる価値づくりプロセスにおけるパートナーをも巻き込んだ効果的・効率的な価値創造のあり方について、その課題と解決策を議論します。

論点

❶ サプライチェーン全体での「コト価値」づくりへの変革の課題とは何か。

❷ コト価値創造に向けた新製品開発では、コスト低減活動はどのような考え方や手法で実施すべきか。

❸ サプライヤーとのコト価値共創を効果的・効率的に進めるためには、どのような組織能力・現場力が必要か。また、それらをどのように育成し、推進すべきか。

第7班　新技術開発における「緊密性」と「オープン性」の両立の実現

渡辺 喜道（山梨大学 大学院総合研究部 工学部 コンピュータ理工学科 教授）　藤井 暢純（合同会社グローバル品質経営研究所 代表）

趣旨

モノ価値づくりは、B2Bビジネスにおける「規模の経済」から「範囲の経済」への変革を求めています。特に、新製品開発において「個々の部品機能適合のみでなく、部品間機能の擦り合わせによる製品開発」をベースとする新技術開発において、「規模の経済」を実現する中でクローズドイノベーションをベースとした「緊密性」と、「範囲の経済」を実現する中でアウトソーシング・オープンイノベーションをベースとした「オープン性」の両立を実現することが求められています。

第7班では、新技術開発における「緊密性」と「オープン性」の両立を実現するための課題と解決策について議論します。

論点

❶ 新技術開発において、「規模の経済」を実現する中でクローズドイノベーションを実現するための課題は何か?

❷ 新技術開発において、「範囲の経済」を実現する中でアウトソーシング・オープンイノベーションを実現するための課題は何か?

❸ 新技術開発における「緊密性」と「オープン性」の両立を実現するための課題と解決策は何か?

第8班　一人ひとりの持つ暗黙知の標準化による人材の育成と強化

奥原 正夫（公立諏訪東京理科大学 工学部 教授）　大慈彌 篤哉（株式会社リコー 経営戦略本部 経営品質管理センター 品質システム革新室 室長）

趣旨

ビジネスモデルで先行し、現場力で勝負するためには、コト価値創造に貢献できる人材育成のあり方に変革が求められています。特に、団塊ジュニア世代の退職を迎える中でそれぞれの組織に散在している一人ひとりの保有する暗黙知（個々人の保有技術・技能・知識・体験・ノウハウ）の世代を超えたコミュニケーションによる伝承、ICT利活用によるデジタル化、維持・改善を通じた知の標準化による人材育成と強化が求められています。

第8班では、これら知の標準化による人材の育成と強化について議論します。

論点

❶ 人材の育成と強化に役立つ標準化ができている現場とできていない現場を階層や分野で分けたときにその違いは何か。

❷ 人材の育成と強化に役立つ標準化がうまくできていない現場が共通に抱える課題には何があるのか。

❸ 人材の育成と強化に役立つ標準化とするためには、どのような仕組みや取り組みが必要なのか。

※原則として、各班 10 名を定員としております。先着順となりますので、第 1 希望の班が定員に達した場合、第 2 希望とさせていただく場合がございます。

※組織名・役職は、2022 年 3 月現在の表記になっております。

〈確認ください！〉品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

品　　質	顧客及び社会のニーズを満たす度合い
品　質　保　証	顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
	⇒「品質」は、モノの出来栄えのことではない。
サービス･ドミナント･ロジック	価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる ※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
グッズ・ドミナント・ロジック	価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている ※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
	⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

メリット 1　講演（トップランナー企業）から、TQM の推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット 2　グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット 3　参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員:1口につき年額199,100円（税込み）　団体会員:1口につき年額117,700円（税込み）

入会いただきますと

- **企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。**
- **団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。**
- ●無料参加枠以外の方は特別価格（46,200 円・税込み）でご参加いただけます。
- ●本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS 独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム　会員企業・団体

※2022年3月現在、50音順　**117社**

1 アート金属工業 ㈱
2 ㈱ アーレスティ
3 ㈱ アイシン
4 アイシン・インフォテックス ㈱
5 アイシン機工 ㈱
6 アイシン軽金属 ㈱
7 愛知製鋼 ㈱
8 アイホン ㈱
9 EARTHBRAIN
10 ㈱ 麻生
11 ㈱ アドヴィックス
12 ㈱ イシダ
13 NEC プラットフォームズ ㈱
14 ㈱ FTS
15 ㈱ MC システムズ
16 エリーパワー ㈱
17 大塚化学 ㈱
18 岡谷電機産業 ㈱
19 ㈱ オティックス
20 オムロン ㈱
21 鹿島建設 ㈱
22 ㈲企画システムコンサルティング
23 ㈱ キャタラー
24 光洋サーモシステム ㈱
25 コーセル ㈱
26 小島プレス工業 ㈱
27 コニカミノルタ ㈱
28 ㈱ 小松製作所
29 ㈱ コロナ
30 サラヤ ㈱
31 澤藤電機 ㈱
32 サンデンシステムエンジニアリング ㈱
33 サンデンホールディングス ㈱
34 ㈱ シーヴイテック
35 ㈱ GS ユアサ
36 ㈱ ジーシー
37 ㈱ ジーシーデンタルプロダクツ
38 JFE スチール ㈱
39 ㈱ ジェイテクト
40 芝浦機械 ㈱
41 清水建設 ㈱
42 JUKI ㈱
43 シロキ工業 ㈱
44 ㈱ 新川
45 ㈱ SUBARU
46 住友理工 ㈱
47 積水化学工業 ㈱
48 ㈱ セキソー
49 ソニーセミコンダクタソリューションズ ㈱
50 ダイキン工業 ㈱
51 ㈱ 大広
52 ダイハツ工業 ㈱
53 大豊精機 ㈱
54 ダイヤモンドエレクトリックホールディングス ㈱
55 大和リース ㈱
56 ㈱ 竹中工務店
57 中国化薬 ㈱
58 ㈱ 千代田グラビヤ
59 DMG 森精機 ㈱
60 ㈱ デンソー
61 ㈱ 東海理化
62 東久 ㈱
63 ㈱ 東陽テクニカ
64 東レ ㈱
65 TOTO ㈱
66 （一社）富山県経営者協会
67 トヨタ自動車 ㈱
68 トヨタ自動車九州 ㈱
69 トヨタ自動車北海道 ㈱
70 ㈱ 豊田自動織機
71 トヨタ車体 ㈱
72 豊田バンモップス ㈱
73 トヨタ紡織 ㈱
74 トヨタホーム ㈱
75 長津工業 ㈱
76 新潟ダイヤモンド電子 ㈱
77 ㈱ ニコン
78 日華化学 ㈱
79 ㈱ 日科技連出版社
80 日産自動車 ㈱
81 日産車体 ㈱
82 日本精工 ㈱
83 日本電気 ㈱
84 ㈱ 日本科学技術研修所
85 日本商工会議所
86 日本特殊陶業 ㈱
87 パナソニック ㈱
88 パナソニック ㈱オペレーショナルエクセレンス社
89 ㈱ 羽生田製作所
90 日立 Astemo ㈱
91 ㈱ 日立製作所
92 日野自動車 ㈱
93 ヒロセ電機 ㈱
94 富士フイルムビジネスイノベーション ㈱
95 富士フイルムマニュファクチャリング ㈱
96 富士電機 ㈱
97 フジミ工研 ㈱
98 フタバ産業 ㈱
99 ㈱ ブリヂストン
100 ぺんてる ㈱
101 ㈱ 保志
102 本田技研工業 ㈱
103 前田建設工業 ㈱
104 ㈱ 前田製作所
105 マツダ ㈱
106 ㈱ マルヤスエンジニアリング
107 丸和電子化学 ㈱
108 三島食品 ㈱
109 三菱電機 ㈱
110 ㈱ 村田製作所
111 ㈱ メイドー
112 名北工業 ㈱
113 ㈱ 安川電機
114 ㈱ ユニバンス
115 楽天グループ ㈱
116 ㈱ リコー
117 リコーテクノロジーズ ㈱

参加要領

※詳細は、開催要領をご確認ください。（宿泊費等）

開催日時

2022年6月2日（木）19:00~4日（土）12:00
（6月2日受付開始17:00~、夕食18:00~）

第113回品質管理シンポジウムは、現段階では予定通り開催いたします。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大等、都道府県・自治体または保健部局の協力要請等により、オンライン開催に変更する場合がございます。（2022.3.14現在）
最新情報は、適宜webサイトでご案内を申し上げるとともに、連絡担当者様にe-mail等で別途ご連絡いたします。

会　場

大磯プリンスホテル
〒259-0193　神奈川県中郡大磯町国府本郷 546
TEL：0463-61-1111　FAX：0463-61-6281

参加対象

企業の役員、上級管理職の方々
※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い関連のある部門とその役割を担う方々のご参加について、ご検討をお願いします。

参加方法

集合参加	現地（大磯プリンスホテル）へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能
ライブ配信参加	PC等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1~4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）を視聴可能

※ライブ配信参加の場合、GD へは参加できません。
※ライブ配信の詳細（配信プラットフォーム、推奨環境等）は Web サイトをご参照ください。

参加費（税込）

QCS 企業会員・団体会員

参加方法に関わらず、トップ枠・通常枠の 2 名無料枠をご利用いただけます。
※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ（1 名分）」となります。
無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、46,200 円／ 1 人の参加費を申し受けます。

一般参加

ライブ配信参加のみ　99,000 円／ 1 人

団体参加（ライブ配信参加）

シンポジウムの各講演、GD 報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加（視聴）いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。

- ◆ 50 名まで…330,000 円
- ◆ 51 名~ 100 名まで…880,000 円
- ◆ 101 名~ 200 名…1,100,000 円

※ 200 名以上の場合は、下記までお問い合わせください。

その他、付帯費用

・宿泊費は、開催要領をご確認ください。
・食事代（6月2日夕、6月3日朝・昼・夕、6月4日朝・昼）は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。
※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所（各居室等）での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代を請求いたします。（電子タバコも禁止です）

シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。
http://www.juse.jp/qcs/

最近の主な講演者

（組織名・役職は講演当時の表記になっております）

第 112 回



津賀 一宏 氏
パナソニック㈱
取締役会長

第 111 回



山本 圭司 氏
トヨタ自動車㈱
執行役員

第 110 回



樋口 泰行 氏
パナソニック㈱
代表取締役 専務執行役員
コネクティッドソリューションズ社 社長

第 109 回



百野 研太郎 氏
楽天㈱
副社長執行役員
COO

第 108 回



麻生 泰 氏
㈱麻生
代表取締役会長

第 107 回



山名 昌衛 氏
コニカミノルタ㈱
代表執行役社長 兼 CEO

品質管理シンポジウム組織委員

（五十音順、敬称略）
（組織名・役職は2022年3月現在の表記になっております）



猪原 正守
大阪電気通信大学
名誉教授



小笠原 浩
㈱安川電機
代表取締役会長兼社長



永田　靖
早稲田大学
教授



宮本 眞志
トヨタ自動車㈱
カスタマーファースト
推進本部長



棟近 雅彦
早稲田大学
教授

一次申込期日：4月18日（月）までとさせていただきます。

※ソーシャルディスタンスの確保、3密の回避の観点から、会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申込みください。
一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、二次申込を実施します。　二次申込の詳細は、改めてご連絡いたします。

シンポジウムの内容に関する問い合わせ先
一般財団法人日本科学技術連盟　品質管理シンポジウム担当（安隨／橋本／中村）
〒166-0003　東京都杉並区高円寺南 1-2-1
TEL：03-5378-1215　FAX：03-5378-9842　E-mail：tqmcre@juse.or.jp

請求に関する問い合わせ先
株式会社 JTB　QCS 事務局（担当：渡辺／徳田／高橋）
〒163-0431　東京都新宿区西新宿 2-1-1　新宿三井ビルディング 31 階
TEL：03-5539-2849　FAX：03-5539-2828　E-mail：qcs@jtb.com